

働！

の提言

都留市まちづくり会議は、公募委員を含む市民、学生30名により、5月13日に発足しました。本年1月に実施した市民意識調査結果をもとに、5回にわたり、次のとおりテーマを定めて今後10年間の都留市のまちづくりの方向について話し合ってきました。その結果、10の重点項目が提言として市長に提出されました。

- 第1回 5月13日 「市民意識調査結果」「現況概要検討」
- 第2回 5月30日 「まちの活性化」
- 第3回 6月20日 「安心・安全なまちづくり」
- 第4回 7月 8日 「少子高齢社会」
- 第5回 7月22日 「行政改革と協働型まちづくり」「まとめ」



テーマ3：少子高齢社会

少子化の進行は、次代を担うべき子どもたち同士の交流の機会が減少するなどの弊害のほか、地域全体の活力の低下につながります。

そのため、安心して子どもを生み育てることができるよう、市民が支え合う子育て環境づくり、相談体制の充実、健康管理の支援、さらには社会情勢の変化に対応した保育サービスの充実など子育て支援の強化が求められています。

一方、高齢社会の到来とともに、寝たきりや認知症高齢者の増加が予想されるため、健康ではつらつと暮らせるまちづくりを目指し、市民一人ひとりの健康や体力づくりとともに、生きがいつくりに取り組めるよう支援体制の整備が必要となっています。

【重点項目】

①子ども一人ひとりを慈しみ、地域全体の宝として子育て支援するまちづくり

子どもは、地域全体の宝として、子育て相談体制の充実、健康管理の支援、さらには社会情勢の変化に対応した保育サービスの充実など、地域全体で行う子育て支援体制を構築する。

②健康で、はつらつと暮らせるまちなの実現

すべての市民が、鶴寿(100歳)を目指し、健康ではつらつと暮らせるよう、健康づくり、生きがいつくりなどへの支援体制を整備する。

③一人ひとりの人権を尊重し、家庭・地域が互いに支え合う福祉のまちづくり

要介護高齢者や障害を持つ人が、自立的に生活できるような仕組みをつくり、個々の能力を発揮し、社会参加したり、働くことができる場や環境を提供する。

また、介護者の負担軽減を図るため、在宅福祉サービスの充実を推進するほか、低所得世帯に対するセーフティネットを構築する。

テーマ4：行政改革と協働型まちづくり

地方分権が進む中、自己決定、自己責任、自己負担の原則によるまちづくりが求められており、受益と負担の関係に基づいた行政サービスのあり方が問われています。

行政はもちろん市民もそれぞれの役割を認識し、自らの意思で行政運営に参加することが求められており、今後とも、市民主体、男女共同参画のまちづくりを基本姿勢に、市民と行政の望ましい関係や役割を確立し、市民と行政の協働による新たな市政運営システムを確立することが必要となっています。

【重点項目】

①効率・公平・透明な行財政経営の確立

事務事業や公共サービスにおける受益と負担の見直しを進め、効率的で、公平性、透明性の高い行財政運営システムを確立する。

②協働のまちづくりの推進

自助・共助・公助の理念に基づき、市民主体、男女共同参画のまちづくりの取り組みを明確にし、計画づくりや施策、事業などへの市民の参画と協働を一層推進するために「(仮称)自治基本条例」を制定し、ソフト・ハード両面にわたる支援体制を確立する。

今後のスケジュール

- 9月 長期総合計画審議会発足、諮問
- 10月 基本構想案パブリックコメント実施
シンポジウム開催
- 11月 同審議会より長期総合計画基本構想案答申
- 12月 基本構想案を定例市議会提案、議決
- 3月 同審議会より長期総合計画基本計画案答申
基本計画、実施計画決定

※提言書の詳細、会議録は、市ホームページの「第5次都留市長期総合計画を策定中」の「都留市まちづくり会議提言書」「同会議録」に全文が掲載されています。

キーワードは 地域資源、安心・安全、協

第5次長期総合計画策定のための「都留市まちづくり会議」

テーマ1：まちの活性化

商店街の活性化をはじめ、活力ある産業基盤を形成し、まちの活気や雇用の場を確保していくためには、企業誘致や地場産業の育成をはじめ、商業・観光業の活性化、地域性に即した農林水産業の振興に努めるとともに、地域資源を活用した産業を育成する必要があります。

特に、12人に1人が都留文科大学生という学園のまちとしての特色に立脚し、学生と地域が、お互いにプラスになる関係の構築や、都留文科大学のもつ知的資源の活用は、これからのまちづくりに最も重要な視点と考えます。

また、中央自動車道都留インターチェンジのフルインター化による、首都圏並びに中京圏との交通アクセスの改善を睨んでの、産業基盤整備や企業などの誘致を含めての振興策の強化は、喫緊の課題となっています。

【重点項目】

①都留文科大学の知的資源を活用したまちづくりの推進

大学の持つ知的資源を教育分野はもとよりまちづくり全般にわたり活用し、「参加・学習・体験都市」構想や生涯学習の推進を通じて、魅力ある「教育首都都留」の実現を目指す。

②地域資源を活かした「参加・学習・体験都市」構想の推進

豊かな自然、特色ある歴史や文化など多くの地域資源を活用した「参加・学習・体験都市」構想を推進し、PR戦略を構築する。

③個性あふれる地域産業の育成

まちの活気を取り戻すために、市民生活を支える地域の商店街や産業の育成については、本市独自の歴史・文化・風土を活かした視点を取り入れ、個性あふれる取り組みを推進する。

また、若者をはじめ中高年の雇用確保の観点から、中央自動車道都留インターチェンジのフルインター化を睨んでの、地域産業の育成並びに支援策の強化を図る。



テーマ2：安心・安全なまちづくり

防災体制や消防・救急体制を充実させるとともに、交通安全対策を促進し、安全に暮らせる地域社会を確立することが求められます。特に、心配される大規模災害や、増加の一途を続ける犯罪被害に地域全体で備えるため、災害に強い情報網や都市基盤の整備を進めるとともに、地域の防災・防犯機能の強化が喫緊の課題であります。

また、住宅や水環境など居住環境の向上に併せて、公園・緑地、道路網などの整備や環境衛生に努め、ユニバーサルデザインを念頭において快適なまちづくりを推進するとともに、市民とともに潤いのある都市景観を形成していく必要があります。

地域の自然環境を守ることは、地球環境を守ることにつながります。このため、市民と行政、事業者が連携し、ごみの減量化をはじめ、リサイクル、省資源・省エネルギー対策を推進するなかで、環境負荷の少ない生活の仕組みをつくり、自然との共生を図っていく必要があります。

【重点項目】

①安心して住み続けることができるまちづくり

災害に強い情報網と都市基盤の整備は喫緊の課題であり、公共施設の耐震化や、地域の防災・防犯機能の強化を図る。

②安全で快適な生活環境の創造

市民と行政、事業者が連携し、ごみの減量化をはじめ、リサイクル、省資源・省エネルギー対策を強化し、豊富な水資源や自然環境に負荷の少ない生活の仕組みを構築する。また、ユニバーサルデザインの普及を推進し「住み心地のよいまち」の実現を図る。